

## 世界システムの GCES 構造と 「制度設定者のレント」をめぐる闘争

杉崎 京太

1. はじめに
2. 世界システムの GCES 構造と「制度設定者のレント」をめぐる闘争
3. 小 括 ―膨張する GCES 構造がもたらす危機―

### 1. はじめに

マルクスのプランにあった「世界市場・国際商業・国家」の三層構造については、すでに何度か論じてきた。19世紀の工業化と世界市場拡大の時期の歴史的制約により、マルクスは「資本の世界性」について検討することはできなかった。一方、マンデルは、資本の自由移動と国家による金融政策、外国為替相場制度の安定性の三者の関係として捉え、固定為替相場制度と変動為替相場制度のもとでの財政政策と金融政策の有効性を検討しようとした。このマンデルの「不可能な三角形」における、資本移動の自由のもとで国家の経済政策がうける制約の問題について、あらためて「資本の世界性」と「国家の領域性」との対立を「国際商業・外国為替制度」が調整するメカニズムとして、グローバルな GCES 構造を提起した。(杉崎、2009、2014) これは、マルクスの「国際貿易論」に依拠した世界システムの三層構造のプランを、資本が自由な移動性を獲得した世界における三層構造として捉え直すことにほかならない。この GCES 構造と、そこでの「制度設定者のレント」をめぐる闘争について、これまで考察してきた論点を整理することが本稿の課題である。その際、GCES 構造論は、世界システムを分析するうえでの方法的基礎をなすものとしてある。本稿は、これまでに提示した論点を命題として整

理したものであり、その実証は別の機会にゆずりたい。

## 2. 世界システムの GCES 構造と「制度設定者のレント」をめぐる闘争

**命題1** 世界市場において資本の自由移動が可能な世界システムは、GCES (Global Capital Exchanges States) 構造として表わすことができる。

「世界市場・国際商業・国家」(マルクス)の三層構造は、国際貿易を軸に資本主義の世界市場創出傾向を明らかにしようとするプランではあったが、プランの域を出ず、世界市場と国家の矛盾も明確に捉えられていなかった。資本移動の自由が、ケインズの財政・金融政策を拘束することを、外国為替制度との関連で明らかにしたのがマンデルの「不可能な三角形」である。マンデルには、「資本の世界性」と「国家の領域性」、なかんづく「国家による資本賃労働関係を軸とした社会的諸関係の統括」についての洞察があったわけではなく、あくまで政策選択を問題にしたにすぎなかった。しかし、資本主義が労働力商品化の無理を領域国家Sのもとで統括する一方で、資本移動の自由を獲得した「世界的資本GC」は国家間を自由に移動し、そのことによって国家を商品として対象化するのであって、その両者の関係を調整する「国際商業・外国為替制度E」という三者の関係を、成層的な関係としてではなく、相互に不可分で対立し合いながら、調整を必要とするシステム関係として捉える端緒を創ったのは「マンデルの不可能な三角形」であったといつてよい。これらを総括するものとして、世界システムをGCES (Global Capital Exchanges States) 構造として表わすこととする。

**命題2** 世界システムとしてのGCES (Global Capital Exchanges States) 構造のもとでは、「制度設定者のレント」をめぐる闘争(対立と協調)があらゆる方向に展開する。

世界的に移動の自由を獲得した「世界的資本GC」と「領域的国家S」との間には根本的な矛盾が存在する。なぜなら、無国籍なGCは利潤の最大化をもとめて自由に国家間を移動するのに対して、領域的国家Sは、GCの移動を規制して国内政策に順化させようとするからであり、そのための制度を設定し、レントを獲得しようとするからである。これに対して、GCは、世界的

拡張性(「世界市場創出傾向」)を可能にする制度設定を行おうとする。GC が、グローバルな同質的市場制度を設定して自由な移動を可能にしようとするのに対して、S は、統括する資本賃労働関係と他の社会的諸関係に即して制度設定を追求するため、両者の間には根本的な矛盾が存在する。

GCES 構造においては、GC と S の間の矛盾は、E において調整される。その際、E のメカニズムは、GC にプラットホームとしての国際資本市場を提供する中心部と、自由な移動を受け入れる周辺部との間で、中心・周辺( $\kappa \sim \pi$ )関係を構成し、そのことによって、不均等で多様な資本主義の発展をもたらす。かくして、世界システムとしての GCES 構造のもとでは、GC の自由な移動を通じて、「制度設定者のレント」をめぐる闘争(対立と協調)があらゆる方向に展開する。これは GC がその自由を獲得するために、既存の制度の改編を要求するからである。かくして GC はこの世界システムにおいて、自由の先導者であり、制度設定者であるが、既存の制度と社会関係に対する破壊者としての役割もはたすことになる。このような破壊者としての「暴力性」が容認されるのは、その闘争(対立と協調)の両義性が、市場メカニズムのもとでは、経済活動の内に不可視化されるからである。

**命題3** 世界システムとしての GCES 構造のもとでは、国家は対外国家と対内国家に分離し対立する契機をもつ。

GCES 構造のもとでは、圧倒的な GC の前に小国 S は、GC の要求を受容する対外国家と、国内の社会的諸関係の利害を代表する対内国家とに分裂する可能性に、常に晒されている。

ここでは GC は S の政策に順化するべき対象ではなく、国内資本 DC とも対立し、国内資本 DC と賃労働 L 関係や他の社会的諸関係 R とも対立する契機をもつ進入者であるが、その闘争(対立と協調)の両義性は、市場メカニズムのもとでの自由な経済活動として不可視化される。

**命題4** 世界システムとしての GCES 構造は、対外国家と対内国家の結節が分裂する契機をもち、かつ対内国家が資本賃労働関係とその他の社会的諸関係を統括するシステムを内包していることから、その構造は次のように定式化される。

$$GCES \stackrel{\text{def}}{=} GC \cdot E_{\kappa \sim \pi} \cdot S_{n\sigma} \left[ S_{n\chi} \{ (DC \cdot L) R \} \right] \cdot BCP$$

ここでは、GCES の構造は次の諸要素により分節化される。

GC 世界資本； $E_{K \sim \pi}$  為替（中心・周辺）； $S_n$  国家  $n$ ； $S_\sigma$  対外国家； $S_\chi$  対内国家；  
DC 国内資本； $L$  労働； $R$  他の社会構成体；BCP Border Crossing People 越境  
する人々である。

**命題5** 世界システムとしての GCES 構造は、根本的に不安定にならざるをえない。これは、GC が利潤の最大化を追求する私的資本であって、世界システムに対して責任を負う世界国家 GS としての、人類的な公共性を持ち得ないためである。

GC による小国  $S$  への内部浸透と  $S$  の商品化により翻弄される小国群は、国家連合や国際機関の力を借りて GC を規制しようとするが、世界的なピラミッド構造の上層部によって構成される上層的世界国家ではなく、BCP を含む世界の困窮者総体に責任を負う世界国家 GS を構成することなしには安定しえない。

### 3. 小 括 —— 膨張する GCES 構造がもたらす危機

今にして思えば牧歌的でさえあるマルクスの「世界市場・国際商業・国家」の三層構造の時代から、200 年もたたないうちに、資本主義は、際限なく膨張する GCES 構造を制御する有効な手段をもちえないまま、不均衡を拡大しながら地球規模の環境の上限に達しようとしているかのようである。それ自体、本来は人間の労働の果実であるべき GC を、人類知によってコントロールすることが現代的課題として求められている。

#### 参考文献

- 青才高志 (1990) 『利潤論の展開 ―概念と機構―』時潮社。  
石崎昭彦 (1990) 『日米経済の逆転』東京大学出版会。  
伊藤誠 (2006) 『幻滅の資本主義』大月書店。  
伊藤誠 (1989) 『資本主義経済の理論』岩波書店。  
稲富信博 (2000) 『イギリス資本市場の形成と機構』九州大学出版会。  
宇野弘蔵 (1962) 『経済学方法論』東京大学出版会。

- 青木昌彦(1995)『経済システムの進化と多元性—比較制度分析序説—』東洋経済新報社。
- 青木昌彦/奥野正寛編(1996)『経済システムの比較制度分析』東京大学出版会。
- 大内力(1970)『国家独占資本主義』東京大学出版会。
- 大内力(1983)『国家独占資本主義・破綻の構造』お茶の水書房。
- 大内力(1991)『世界経済論』東京大学出版会。
- 小幡道昭(1988)『価値論の展開—無規律性・階級性・歴史性—』東京大学出版会
- 加藤栄一(1979)「組織資本主義論と現代資本主義論」『経済評論』1979年7月号。
- 加藤栄一(2006)『現代資本主義と福祉国家』ミネルヴァ書房。
- 金子勝(1997)『市場と制度の経済学』東京大学出版会。
- 河合正弘(1994)『国際金融論』東京大学出版会。
- 河村哲二(1996)『制度と組織の経済学』日本評論社。
- 工藤章(1999)『20世紀ドイツ資本主義』東京大学出版会。
- 菅原陽心(1997)『商業資本と市場重層化』御茶ノ水書房。
- 杉崎京太(1996)『鉄鋼業の盛衰』、湯沢威編『イギリス経済史』有斐閣。
- 杉崎京太(1998、1999、2000、2001、2002、2003、2004、2005、2006-c、2007、2008-c、2009-c、2010-c、2011、2012、2013、2014、2015)「研究ノート グローバリゼーションの今日的意味をめぐって (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18)」津田塾大学『国際研究情報』第33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50号。
- 杉崎京太(2006-a)「欧州統合下のFDIの展開—「神聖ならざる三位一体」から「歪んだ四面体」の溶解へ—」津田塾大学『国際関係学研究』第32号。
- 杉崎京太(2006-b)「研究ノート「グローバリゼーション」と欧州統合の現段階—市場の流動化と社会的規制をめぐって—」津田塾大学国際研究所『総合研究』第4号。
- 杉崎京太(2007)「景気循環の収斂と乖離の基礎過程—グローバル化と欧州統合の現段階—」、小川英治編『EUスタディーズ2 経済統合』勁草書房。
- 杉崎京太(2008-a)「〈研究ノート〉グローバル化と『制度設定者のレント』をめぐる諸問題—いくつかの命題をめぐって—」『津田塾大学紀要』第40号。
- 杉崎京太(2008-b)“Convergence and Divergence of Business Cycles in European Integration: Reconsidering the Meaning of ‘Economic Integration’ in the Context of Globalisation”, 津田塾大学『国際関係学研究』No.34。
- 杉崎京太(2009-a)「〈研究ノート〉『制度設定者のレント』をめぐる一考察—『内部労働市場論』に関するいくつかの命題をめぐって—」『津田塾大学紀要』第41号、(pp.135-144)。
- 杉崎京太(2009-b)「『大転換』再考—『溶解する四面体』モデルとの関連で—」津田塾大学『国際関係学研究』No.35。
- 杉崎京太(2010-a)「〈研究ノート〉グローバル資本主義と『制度設定者のレント』—資本主義と制度問題

に関するいくつかの命題—」『津田塾大学紀要』第42号。

杉崎京太 (2010-b) 「欧州通貨統合と『大西洋回廊』の構築 —ドル・ユーロ連結「対環節」の不安定性をめぐって」『津田塾大学「国際関係学研究」No.36。

Takamoto Sugisaki, 〈Research Note〉 A “Dissolving Tetrahedron” Model and the “Libsycti” Model in the Global Financial Crisis: The Market Creator’s Rent in the EU” 津田塾大学『国際関係学研究』2011年3月、No.37 (pp.1-8)。

杉崎京太 (2011) 「〈研究ノート〉制度転換における『制度設定者のレント』をめぐって —制度としての資本主義の体系に関するいくつかの命題—」2011年3月『津田塾大学紀要』第43号、(pp.141-149)。

杉崎京太 (2012) 「〈研究ノート〉世界市場における『制度設定者のレント』をめぐって —資本主義における「制度設定者のレント」2012年3月『津田塾大学紀要』第44号、(pp.69-75)。

杉崎京太 (2013-a) 「〈研究ノート〉贈与における『制度設定者のレント』をめぐって —制度としての資本主義の体系に関するいくつかの命題—」2013年3月『津田塾大学紀要』第45号、(pp.141-149)。

杉崎京太 (2013-b) 「〈研究ノート〉貨幣の暴力をめぐっての一考察」2013年3月『津田塾大学総合研究』第\*\*号、(pp.\*\*-\*\*)。

鈴木鴻一郎編 (1960,1962) 『経済学原理 上下』東京大学出版会。

侘美光彦 (1994) 『世界大恐慌』御茶ノ水書房。

武井邦夫 (1972) 『利子生み資本の理論』時潮社。

立石剛 (2000) 『米国経済再生と通商政策』同文館。

玉田美治 (2006) 『フランス資本主義』桜井書店。

戸原四郎 (2006) 『ドイツ資本主義』桜井書店。

高山与志子 (2001) 『レイバー・デバインド 中流崩壊』日本経済新聞社。

中村泰治 (2005) 『恐慌と不況』御茶ノ水書房。

中山弘正 (2003) 『現代の世界経済』岩波書店。

馬場宏二 (1986) 『富裕化と金融資本』ミネルヴァ書房。

馬場宏二 (2005) 『もう一つの経済学 批判と好奇心』御茶の水書房。

日高晋 (1972) 『商業資本の理論』時潮社。

村上泰亮 (1992) 『反古典の政治経済学 上下』中央公論社。

百瀬宏 (1988) 『小国 —歴史に見る理念と現実—』岩波書店。

山口重克 (1998) 『商業資本論の諸問題』御茶ノ水書房。

山口重克編 (2004) 『新版 市場経済 歴史・思想・現在』名古屋大学出版会。

湯沢威編 (1996) 『イギリス経済史』有斐閣。

Deutsche Bundesbank *Monthly Report*.

Deutsche Bundesbank *International Capital Links*.

England Bank *Monthly Report*.

- U.K. HM Treasury, *UK Membership of the Single Currency: An assessment of the five tests* (HM Treasury, Cm5776, (2003)
- Department of Commerce, U.S. *Survey of Current Business*. Anderson J. (1999) *German Unification and the Union of Europe*, Cambridge U.P., Cambridge.
- Barbour, P. ed. (1996) *The European Union Handbook*, Fitzroy Dearborn Publishers, Chicago.
- Barrell, R. and Pain, N. (1999) *Innovation, Investment and the Diffusion of Technology in Europe*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Bergsten, F. et al. (2005) *The United States and the World Economy*, Washington D.C. IIE.
- Bhagwati, Jagdish, *In Defense of Globalization*, (Oxford University Press.) ジャグディッシュ・バグワティ 著、鈴木主悦・桃井緑美子訳『グローバル化を擁護する』日本経済新聞社。
- Bishop, M. and Kay, J. (1993) *European Mergers and Merger Policy*, Oxford U. P. , Oxford.
- Bloomfield Jr., James A. (2002) *Global Markets and National Interests: The new geopolitics of energy, capital and formation*, The CSIS Press, Washington.
- Buckley, P.J. (1995) *Foreign Direct Investment and Multinational Enterprises*, Macmillan, London.
- Burrows, R. & Loader B. ed. (1994) *Towards a Post-Fordist Welfare State?* London, Routledge.
- Burton, F., Yamin, M. and Young, S. (1996) *International Business and Europe in Transition*, Macmillan, London.
- Buxton, T., Chapman, P. and Temple, P. (1994) *Britain's Economic Performance*, Routledge, London.
- Cadot, O. Gabel, H.L. Story J. and Webber, D. (1996) *European Casebook on industrial and Trade Policy*, Prentice Hall, London.
- Chisholm, M. (1995) *Britain on the edge of Europe*, Routledge, London.
- Cochrane, A. & Clarke J. ed. (1993) *Comparing Welfare States: Britain in International Context*, The Open University, Sage Publications.
- Cool, K., Neven, D.J. and Walter, I. (1992) *European Industrial Restructuring in the 1990s*, Macmillan, London.
- Crawford, M. (1993) *One Money for Europe?* , Macmillan, London.
- Crompton, Rosemary (1998) *Class and Stratification*, 2nd ed. Cambridge, Polity Press.
- Dent, C.M. (1997) *The European Economy: The Global Context*, Routledge, London.
- Dicker, P. (1998) *Global Shift: Transforming the World Economy*, Third Edition, London, Paul Chapman Publishing.
- Dobson, A.P. (1995) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Routledge.
- Doremus, P.N., Keller, W.M., Pauly, L.W. and Reich, S. (1998) *The Myth of the Global Corporation*, Princeton Univ. Press.
- Dow, C. (1998) *Major Recessions*. Oxford U.P..

- Dunnig, J.H. ed. (1997) *Governments, Globalization, and International Business*, Oxford University Press, Oxford.
- Dunning, J. H. (1993) *Multinational Enterprise and the Global Economy*, Addison-Wesley, Wokingham.
- Dyson, K. & Featherstone, K. (2003) *The Road to Maastricht*, Oxford U.P.
- Esping-Andersen, Gosta (1990) *The Three Worlds of Welfare Capitalism*, Cambridge, Polity Press.
- European Commission (1998) *The Competitiveness of European Industry 1998 Report*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *European Union Direct Investment Yearbook 1998: Analytical Aspects*, Luxembourg.
- European Commission (1999) *Panorama, 1998*, Luxembourg.
- Felstead, A. and Jewson, N. (1999) *Global Trends in Flexible Labour*, Macmillan, London.
- Friedman, T.L. (2005) *The World Is Flat: A Brief History of the Twentieth Century. Updated and Expanded Edition*.
- Friedman, T.L. (2005) *The World Is Flat: A Brief History of the Twentieth Century. Updated and Expanded Edition*. 伏見威蕃訳『フラット化する世界 経済の大転換と人間の未来 上下』日本経済新聞社。
- Fynes, B. and Ennis, S. (1997) *Competing from the Periphery: Core Issues in International Business*, The Dryden Press, London.
- George V. & Wilding P. (1999) *British Society and Social Welfare*, London, Macmillan.
- George, S. (1998) *An Awkward Partner: Britain in the European Community, Third ed.* Oxford University Press.
- Gilpin, R. (2000) *The Challenge of Global Capitalism: The world economy in the 21<sup>st</sup> century*, Princeton University Press, 古城佳子訳『グローバル資本主義 危機か繁栄か』東洋経済新報社。
- Goodman, A., Johnson, P. & Webb, S. (1997) *Inequality in the UK*, Oxford Univ. Press.
- Grauwe, P.de (1992) *The Economics of Monetary Integration*, Oxford U.P., Oxford. 金俊昊訳『通貨統合の経済学』文真堂、1995年。
- Grauwe, P.de (1992) *The Economics of Monetary Integration*, Oxford U.P., Oxford.
- Gros, d. & Thygesen, N. (1998) *European Monetary Integration, 2<sup>nd</sup> ed.* Longman.
- Hardt, M. & Negri, A. (2000) *Empire*, Harvard University Press.
- Held, D., McGrew, A. Goldblatt, D. & Perraton, J. (1999) *Global Transformations: Politics Economics and Culture*. 古城利明・白井久和・滝田賢治・星野智訳『グローバル・トランスフォーメーションズ 政治・経済・文化』中央大学出版部。
- Hertz, Noreena (2001) *The Silent Takeover: Global Capitalism and the Death of Democracy*, The Free Press, NY.
- INSEE (1997) *Tableaux de l'Économie Française 21e édition*.
- James, H. (2001) *The End of Globalization: Lessons from Great Depression*, Harvard University Press, 高遠



裕子訳『グローバリゼーションの終焉』日本経済新聞社。

Joint, P, Courbon, J.P., Pauline, M. et Viau, J.-C. (1992) *La Géographie de l'Europe des 12*, Nathan, Paris.

Joseph Rowntree Foundation (1995) *Inquiry into Income and Wealth*, Vol.1, York, Joseph Rowntree Foundation.

Kahler, M. (1998) *Capital Flows and Financial Crisis*, Manchester Univ. Press.

Karl Polanyi, *Great Transformation*, 1957. 吉沢英成・野口健彦・長尾史郎・杉村芳美訳『大転換』東洋経済新報社、1975 年。

Keasey, K., Thompson, S. and Wright, M. eds. (1997) *Corporate Governance*, Oxford Univ. Press.

Kenen, P.B. (1995) *Economic and Monetary Union in Europe*, Cambridge U.P., Cambridge.

Kindleberger, C.P. (1987) *International Capital Movements*. Cambridge U.P. 長谷川聰哲『国際資本移動論』多賀出版、1991 年。

Krugman, P. (1999) *The Return of Depression Economics*, New York, W.W. Norton & Company.

Marais, Hein (1998) *South Africa: Limits to Change: The Political Economy of Transformation*, UCT Press (Pty) Ltd.

Milner, H. (1989) *Sweden: Social Democracy in Practice*, Oxford University Press.

Mundell, R.A. (1961) "A theory of optimum currency policy areas". *AER* 51 (September).

Nicolas Crafts and Gianni Toniolo, eds. (1996) *Economic Growth in Europe since 1945*, Cambridge U.P.

Niehans, J., (1984) *International Monetary Economics*, The John Hopkins University Press. 天野明弘・井川一宏・出井文男訳『国際金融のマクロ経済学』東京大学出版会、1986 年。

Nye Jr., J.S. (2002) *The Paradox of American Power: Why the World's only superpower can't go it alone*, Oxford University Press.

O'Connor, J., Orloff, A. H. & Shaver, S. (1999) *States, Markets, Families: Gender Liberalism and Social Policy in Australia, Canada, Great Britain and the United States*, Cambridge University Press.

Oliver de Bandt, Heinz Hermann, Giuseppe Parigi eds., *Convergence or Divergence in Europe? : Growth and Business Cycles in France and Germany and Italy*. (Springer, 2006)

Oppenheim, C. & Harker, L. (1996) *Poverty: the facts*, London, Child Poverty Action Group.

Ovendale, R. (1998) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Macmillan.

Pelkamns, J. (1997) *European Integration*, Pearson Education. 田中素香訳『EU 経済統合 深化と拡大の総合分析』文真堂、2004 年。

Pierson, C. (1998) *Beyond the Welfare State*, 2nd ed., Cambridge, Polity Press.

Reich, R.B. (1991) *The Works of Nations: preparing Ourselves for 21st-Century Capitalism*. 中谷巖訳『ザ・ワークス・オブ・ネーションズ 21 世紀資本主義のイメージ』ダイヤモンド社。

Sassen, S. (1998) *Globalization and Its Discontents*, New York, The New Press.

Standing, G. (1999) *Global Labour Flexibility*, Macmillan, London.

- Stiglitz, J.E. (2002) *Globalization and Its Discontents*, New York, W.W.Norton & Company 鈴木主悦訳『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店。
- Tindale, S. (1996) *The State and the Nations*, London, IPP.
- UNCTAD (1996) *Transnational Corporations and World Development*, ITP, London.
- Wallace, C. D. and Kline, J. M. (1992) *EC 92 and Changing Global Investment Patterns*. Centre for Strategic and International Studies, Washington DC.
- Yergin, D. & Stanislaw, J. 1998, *The Commanding Heights: The Battle for the World economy*, A Touchstone Books, N.Y.. 山岡洋一訳『市場対国家』市場対国家(上)(下)』日本経済新聞社。